

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年4月13日
【四半期会計期間】	第16期第1四半期（自平成26年12月1日至平成27年2月28日）
【会社名】	株式会社エスプール
【英訳名】	S-Pool, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 浦上 壮平
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋二丁目15番3号
【電話番号】	03(3517)6633(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部担当 佐藤 英朗
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋二丁目15番3号
【電話番号】	03(3517)6633(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部担当 佐藤 英朗
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第1四半期 連結累計期間	第16期 第1四半期 連結累計期間	第15期
会計期間	自 平成25年12月1日 至 平成26年2月28日	自 平成26年12月1日 至 平成27年2月28日	自 平成25年12月1日 至 平成26年11月30日
売上高 (千円)	1,489,526	1,661,191	6,604,945
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	14,413	24,593	191,868
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失 ( ) (千円)	10,833	27,236	165,434
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	10,761	27,163	165,805
純資産額 (千円)	375,173	699,087	756,284
総資産額 (千円)	1,699,417	1,996,657	2,155,525
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額 ( ) (円)	4.05	9.07	58.89
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	21.9	35.0	35.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第16期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、また、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。第15期第1四半期連結累計期間及び第15期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についての異動は、以下のとおりであります。

(ビジネスソリューション事業)

新たに連結子会社である株式会社エスプールエンジニアリングを設立しております。

(人材ソリューション事業)

主要な関係会社について異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、国内の消費については足踏み状態が続いているものの、企業収益については、米国等の海外需要の復調の恩恵を受けた輸出企業を中心に製造業の生産が回復しており、国内景気は概ね持ち直しの動きが続いております。雇用情勢についても、このような国内企業の収益改善を背景に人材不足感が継続しており、厚生労働省が発表した平成27年2月の全国の有効求人倍率は1.15倍と、1倍を超える高水準な状況が1年以上続いております。幅広い業種で求人が増加し、特に最近では医療・福祉、製造業や小売業において求人数が増加しております。

このような環境の下、当社グループは、当連結会計年度の事業方針である、コアマーケットの深耕・主力事業の再強化と新たな収益の柱の構築の2点に絞って事業を推進しております。主力事業については、前述の通り企業業績が回復していることもあり、人材派遣サービスとロジスティクスアウトソーシングサービスを中心に需要が好調に推移し、売上が順調に拡大しました。一方、損益面については、主力事業の業容拡大と新規事業の強化のために積極的に人員を増員したため、人件費を中心に販売費および一般管理費が大きく増加しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,661,191千円（前年同四半期比11.5%増）、営業損失は22,756千円（前年同四半期は17,682千円の営業利益）、経常損失は24,593千円（前年同四半期は14,413千円の経常利益）、四半期純損失は27,236千円（前年同四半期は10,833千円の四半期純利益）と増収ながら営業損益以下、損失を計上することとなりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント業績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

#### ビジネスソリューション事業

株式会社エスプールロジスティクスにてロジスティクスアウトソーシングのサービスを、株式会社エスプールプラスにて障がい者雇用支援サービス及び付随する農園運営事業を、株式会社エスプールエコロジーにてフィールドマーケティングサービスを、株式会社エスプールセールスサポートにてマーチャンダイジング及び販売促進等のサービスを提供しています。

当第1四半期連結累計期間においては、主力のロジスティクスアウトソーシングサービスが順調に拡大しました。通販事業者向けの共同配送センターが満床に近い状態で稼働したほか、訪日客増加の影響で百貨店向けの物流センターの物量が増加したため、売上が大きく伸張しました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は663,374千円（前年同四半期比12.2%増）、営業利益は21,590千円（前年同四半期比50.4%増）となりました。

#### 人材ソリューション事業

株式会社エスプールヒューマンソリューションズにおいて、人材派遣、人材紹介等、人材に係わるサービスを提供しています。

当第1四半期連結累計期間においては、前述の通り企業の人材不足感が強まっており、主力のコールセンター業務において需要が好調に推移しました。一方、損益面においては、逼迫する人材の採用市場の影響により売上総利益率がやや低下したほか、通信関連の大型案件を見込んで人員を中心に組織強化を図ったため、販売費及び一般管理費が大幅に増加しました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,007,032千円（前年同四半期比9.4%増）、営業利益は58,781千円（前年同四半期比21.6%減）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### 資産

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から195,501千円減少し、1,544,266千円となりました。法人税等や消費税等の納付等により、現金及び預金が104,371千円減少したほか、当第1四半期連結会計期間末前が閑散期に当たるため、売掛金が99,389千円減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から36,633千円増加し、452,391千円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて第三農園を建設しており、有形固定資産が25,410千円増加しました。また、グループ基幹業務システム等への改修投資により無形固定資産が11,335千円増加しております。

### 負債

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から87,253千円減少し、1,169,571千円となりました。短期借入金を100,000千円借り増ししておりますが、納税により未払法人税等が44,264千円、未払消費税等が85,527千円、それぞれ減少しております。また、未払賞与の支給により、未払費用が27,151千円減少しました。また、この他に買掛金が26,742千円減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から14,417千円減少し、127,998千円となりました。約定弁済により、長期借入金が14,487千円減少しております。

### 純資産

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、配当の支払及び四半期純損失により57,197千円減少し、699,087千円となりました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

## (5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

## (6) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

## (7) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,032,000
計	10,032,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年2月28日)	提出日現在発行数 (株) (平成27年4月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,003,400	3,003,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。
計	3,003,400	3,003,400	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年12月1日 ~平成27年2月28日	-	3,003,400	-	351,138	-	201,138

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年11月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式3,002,700	30,027	-
単元未満株式	普通株式 700	-	-
発行済株式総数	3,003,400	-	-
総株主の議決権	-	30,027	-

【自己株式等】

平成26年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社エスプール	東京都中央区日本橋二丁目15番3号	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年12月1日から平成27年2月28日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年12月1日から平成27年2月28日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	819,288	714,917
受取手形及び売掛金	778,561	679,172
商品	6,937	5,797
仕掛品	508	2,844
その他	145,718	150,668
貸倒引当金	11,246	9,134
流動資産合計	1,739,767	1,544,266
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	215,090	221,022
その他(純額)	61,562	81,040
有形固定資産合計	276,652	302,062
無形固定資産		
投資その他の資産		
その他	124,083	123,857
貸倒引当金	30,528	30,415
投資その他の資産合計	93,555	93,442
固定資産合計	415,758	452,391
資産合計	2,155,525	1,996,657
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	105,620	78,878
短期借入金	310,000	410,000
1年内返済予定の長期借入金	75,270	66,936
未払法人税等	47,694	3,429
未払費用	338,793	311,641
賞与引当金	8,148	15,678
役員賞与引当金	14,600	-
その他	356,698	283,007
流動負債合計	1,256,825	1,169,571
固定負債		
長期借入金	109,430	94,943
資産除去債務	26,353	26,423
その他	6,632	6,632
固定負債合計	142,415	127,998
負債合計	1,399,241	1,297,570
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	351,138	351,138
資本剰余金	201,138	201,138
利益剰余金	202,797	145,528
自己株式	53	53
株主資本合計	755,020	697,750
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	809	882
その他の包括利益累計額合計	809	882
新株予約権	454	454
純資産合計	756,284	699,087
負債純資産合計	2,155,525	1,996,657



## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年12月1日 至平成27年2月28日)
売上高	1,489,526	1,661,191
売上原価	1,154,377	1,297,136
売上総利益	335,149	364,055
販売費及び一般管理費	317,467	386,812
営業利益又は営業損失( )	17,682	22,756
営業外収益		
受取利息	122	126
受取手数料	104	214
還付消費税等	1,358	-
その他	35	73
営業外収益合計	1,621	414
営業外費用		
支払利息	3,539	2,029
社債利息	101	-
持分法による投資損失	808	222
その他	441	-
営業外費用合計	4,890	2,251
経常利益又は経常損失( )	14,413	24,593
特別損失		
固定資産除却損	-	122
特別損失合計	-	122
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	14,413	24,715
法人税、住民税及び事業税	3,579	2,520
法人税等調整額	-	-
法人税等合計	3,579	2,520
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	10,833	27,236
四半期純利益又は四半期純損失( )	10,833	27,236

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年12月1日 至平成27年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	10,833	27,236
その他の包括利益		
持分法適用会社に対する持分相当額	72	72
その他の包括利益合計	72	72
四半期包括利益	10,761	27,163
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,761	27,163
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

該当事項はありません。

( 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更 )

連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間から、新たに設立した株式会社エスプールエンジニアリングを連結の範囲に含めております。

( 会計方針の変更 )

該当事項はありません。

( 会計上の見積りの変更 )

該当事項はありません。

( 四半期連結貸借対照表関係 )

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
貸出コミットメントの総額	500,000千円	700,000千円
借入実行残高	250,000	400,000
差引額	250,000	300,000

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年12月1日 至平成27年2月28日)
減価償却費	8,995千円	15,125千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年12月1日至平成26年2月28日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の  
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、当第1四半期連結会計期間において、新株予約権の行使に伴い、資本金が87,159千円、資本剰余金が87,159千円、それぞれ増加しております。これにより、当第1四半期連結会計期間末の資本金が237,159千円、資本剰余金が87,159千円、発行済株式数が2,765,400株となっております。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年12月1日至平成27年2月28日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年2月26日 定時株主総会	普通株式	30,033	10	平成26年11月30日	平成27年2月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の  
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年12月1日至平成26年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ビジネスソ リューション 事業	人材ソリュー ション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	587,991	901,535	1,489,526	-	1,489,526
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	3,196	18,634	21,830	21,830	-
計	591,187	920,169	1,511,357	21,830	1,489,526
セグメント利益	14,359	75,002	89,362	71,679	17,682

(注)1. セグメント利益の調整額 71,679千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 71,679千円であり  
ます。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年12月1日至平成27年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ビジネスソ リューション 事業	人材ソリュー ション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	660,318	1,000,872	1,661,191	-	1,661,191
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	3,056	6,159	9,215	9,215	-
計	663,374	1,007,032	1,670,407	9,215	1,661,191
セグメント利益	21,590	58,781	80,372	103,128	22,756

(注)1. セグメント利益の調整額 103,128千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 101,427千円及び  
セグメント間消去 1,701千円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年12月1日 至平成27年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )	4円5銭	9円7銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (千円)	10,833	27,236
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )(千円)	10,833	27,236
普通株式の期中平均株式数(株)	2,672,336	3,003,338
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	平成25年11月28日取締役会 決議の第2回新株予約権 上記の新株予約権を平成 25年12月16日に割当てたこ とにより238個(株式数 238,000株)増加しておりま す。	-

(注)当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、また、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年4月8日

株式会社エスプール  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大 木 智 博 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 土 居 一 彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エスプールの平成26年12月1日から平成27年11月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年12月1日から平成27年2月28日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年12月1日から平成27年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エスプール及び連結子会社の平成27年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。